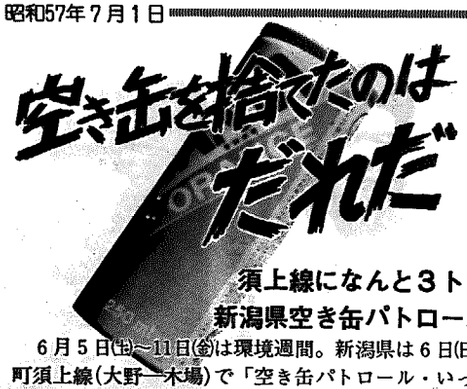
各論提言へ一歩進む

都市問題懇談会

五月十九日(水)、今年第一回めの都市問題懇談会が役場第一委員会室で開かれました。この日は、直接行政を担当する役場の三つの主管課から、現状とその問題点、将来の展望などの説明が懇談会委員になされました。

昨年、十二月に総論的な提言が発表され（広報第二〇七号参照）さまざまな問題を提起しましたが、今年はさらに深く掘り下げた各論を作成する予定です。そのための参考資料となるのが、この日の福祉課長、産業課長、教育委員会事務局長の説明で、保育問題、老人福祉問題、障害福祉問題、大野町商店街の問題、農業問題、学校教育、社会教育、社会体育などにわたって委員と課長の間で質疑応答が行われました。

懇談会では今後二、三回、このように役場の課長から説明を聞き、データーを集約して、早い時期に各論をまとめる予定です。



須上線になんと3トン
新潟県空き缶パトロール

6月5日(土)～11日(金)は環境週間。新潟県は6日(日)本町須上線(大野―木場)で「空き缶パトロール・いっせい回収」を実施しました。

当日、午前八時半、体育館前に町民約200人が集合。県の有磯生活環境部長、浅妻町長らが「地域の環境を守るため空き缶の投げ捨ては絶対にやめましょう」とあいさつし、回収作業を開始しました。体育館から黒埼高校の1.2kmの側溝や道路わき、田んぼや畑にまで空きかんが散乱し、2時間で約3トンも回収しました。「だれが捨てているのか」と参加者の中から怒りに近い言葉ももれました。

◀ほんの一部です

▶真剣な討議

私の視点

町長　浅妻虎一郎

最近、不況脱出のためか活性化が叫ばれている。なぜなのだろうか？そんな疑問をもっていたところ、内外情勢資料に経済評論家はズバリ「人間は因業な動物である。そして人間は悲しい業をもって、この世で生存競争をしている動物である」と痛烈な批判と叱咤(しった)勉励をしていたのを読んだ。

さらに人間は一日のうち、八時間も飲み食いはできない。また、八時間も情事にふけることもできない。ただ人間が一日のうち八時間もできることは、悲しいことに仕事だけであるといっている。これは時期に適した極めてごもっともな意見である。

これを否定したとすれば、今日の繁栄はおろか長命もないと思うからである。一方、昔からの格言に「流れざる水は腐敗す」と論じている。この内容は水が停滞し長くなれば腐敗し、やがてボウフラが発生する。「小人閑居して不善をなす」ということわざがある。閑とは何ぞや？個人の停滞している状態を最も明白に示せるものであるといっている。停滞の反対は活動である。活動とはある目的を指して突進する働きをいい、活動家の心身には常に緊張と元気に満ちた計画性があり、ボウフラが発生する余地はない。外部の誘惑に対し、大きな抵抗力を持ち、その精神は愉快だと論されている。

昔も今日も活性化の理念は変っていない。結局は実行あるのみなのだろうか。

戦争で自由と平等、人権尊重の理念は一八〇度転換した。その良し悪しを知るのが人間であり、知らないのが下等動物であるといってもよい。テレビで放映する「野性の王国」は、人間の世の中において、学ぶべきところが多く、考えさせられ反省させられるところが大いにある。

青少年の非行問題、政治面においても、勝てばよくて手段を選ばないというやり方は、人間社会でなく、下等動物のしかも弱肉強食の世の中である。

今年もやります

第三回黒埼町大民謡流し

みなさん、今年も8月に大民謡流しが行われます。昨年は25団体、約1,100 人が参加して大変盛大でした。ぜひ、今年も多くのかたの参加を期待しております。

主催　民謡流し実行委員会
後援　黒埼町教育委員会
期日　8月18日（雨天の場合19日）
場所　大野二の町・仲町・七区
種目　新潟甚句、佐渡おけさ
参加者　自治会、婦人会、各種団体、事業所などどなたでも参加できます。
服装　ゆかた、白足袋、ぞうりを基本としますが特に規制はありません。

参加申し込み先

地区	氏名	地区	氏名
金巻	佐藤秀夫	寺地	岡田誠
大野	宮田栄門	小平方	野崎勇
板井	高橋仁治郎	北場	佐藤祐吉
黒鳥	布川良夫	山田	川合敏秋
善久	武樋繁雄	寺地団地	高橋宏男
木場	石川久蔵	鳥原大明	鈴木芳雄
柳作	稲月千代治	鳥原新田	長谷川一松
川原	野口一夫	蓮方団地	品川祐敏
鳥原本村	木村正純	鳥原新地	山崎武市
立仏	阿部寅一	焼鮒団地	鈴木利

標識　各団体は踊りの障害にならない程度の大きさのプラカードを標示できます。
※プラカードコンクールもあります。

講習指導会　踊りの講習を希望するかたはおいでください。
7月30日(金)　午後7時～　体育館
8月3日(火)　〃　〃　〃

参加申し込み
7月24日まで（厳守）
○希望団体は公民館分館長に申し込むこと。事業所などは教育委員会へ。人員は正確に記入のこと。
○個人参加でもかまいませんが、原則として団体参加。
○参加賞として手ぬぐい、うちわを全体会議のとき配布します。
○全体会議　8月11日　午後7時
総合体育館。代表者は必ず出席。

問い合せ　教育委員会 民謡流し係
（☎7―5211）

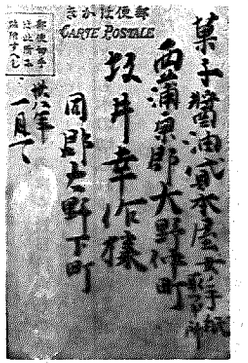
▶昨年の大民謡流し

ラブレターの取次ぎ所

黒埼町の今昔
その2
宮田栄門

大野栄町の坂井国作さん宅に、日露戦争ごろからの古い手紙類が保存してあると聞き訪れた。

きちょうめんな坂井さんが大切に保管していた数通の書簡、書き付けなどみな七、八十年の年月を経たものばかりであった。その中で、ふと私の目をひいたのは達筆な墨字で書かれた一枚の葉書（写真）であった。



日付けは明治三十八年一月一日。今から七十七年前に坂井さんのお父さんあてに出されたものである。

あて名書きがすこぶるおもしろい。あて先の住所の右に、当時の風習なのだろうか、菓子、醤油（しょうゆ）、貸本屋と職業が書いてあって、その下には「女の手紙取ツギ所」とある。つまり、ラブレターの取り次ぎということである。驚くべきというか、楽しいというか、ずいぶん粋な職業である。

坂井さんが親から子供のころ聞いた話によれば、当時貸本屋といってもせいぜい二、三十冊ぐらいの娯楽本を持っていただけで、家にじっとしていてもだれも借りに来ない。そこで、本を貸しに家々を回っていた。その時、本と一緒に菓子やしょう油を持っていったそうである。家々に出入りするうちに、顔が広くなり、便利がられた。そして、こんな内緒の手紙が頼まれるようになった。いわば、私立の郵便局である。当然、切手も貼る必要がない。

看板こそ上げていなかったが町の人たちにけっこう知られていて、多くの利用者があったという。

「男女七歳にして席を同じくせず」といわれた時代、こんな商売も成り立っていたのである。